



10日、参議院議員通常選挙。民意を託しました。アイヌ文化の復興・発展の拠点・ウポポイが12日

7月

表した「太平洋沿岸の津波浸水想定」に基づき、最新情報を盛り込んだ改訂版防災マップを全戸配布しました。8月には道総合防災訓練との合同による町総合防災訓練を実施。災害対策は無関心が最大の敵。旅先納税「ふるたび しらおい」の開始。本町への訪問を機に寄付、返礼品は本町でのみ使える電子商品券の発行という仕組みに地域経済活性化の期待がかかります。15日には運転に不安を抱える高齢者が運転免許証を自主返納しやすい環境づくりの一環として、返納窓口（苫小牧警察署）と町独自事業として返納者・失効者に配布する地域公共交通共通回数券配布窓口の合同窓口を開設。家族やお年寄りの好評を得、後日第2弾も実施しました。令和3年3月に建設基本構想を策定した役場庁舎建設事業が、基本計画策定の検討材料とともに広報紙を通じあらためて示されました。

最新の改訂版防災マップ片手に家庭、職場で話し合い



で開業2周年を迎え、さまざまな記念イベントが催されました。コロナ禍にありこの2年間で道内外からの52万7千人が来場、アイヌ文化に触れられた。併せて7月の開業2周年記念&音楽フェスを皮切りに、今年も町のポトミンタラフェスが開催され、町民や観光客を楽しませました。

8月



旧民族博物館、白老日台親善協会の民間交流を

ウポポイが開業2周年 コロナ禍の逆風の中健闘

機に、町は台湾・花蓮県秀林郷と友好交流推進協定を締結。幅広い交流が期待されています。自家製野菜を通じた地域交流を続ける白老宏友会のご近所野菜が10周年。新鮮な野菜に町民も笑顔。本町の歴史姉妹都市・仙台市から郡和子市長ら訪問団が来町。さらなるつながりを深めることを確認しました。市長らが仙台藩が築いた元陣屋跡の藩士の墓地に手を合わせる姿が印象的でした。



白老文化観光推進実行委による白老芸術共創が2年目に。27、10月10日、アヨロ鼻灯台の再点灯や壁画制作、招へいアーティストによる作品展示などで文化+観光振興の道を探りました。

9月

世界的な需要増加や口

よさこいソーランの大乱舞に町民活気づく

シアによるウクライナ侵攻の影響による原材料価格の高騰、原油価格の上昇による物の値上がり、円安による輸入コスト増加分の価格上昇せ。コロナや物価高騰対策として国は各種給付金事業を展開。本町も町民全員に「しらおい応援商品券（1人5千円分）」を配布するなど手当を講じています。庶民の生活は崖っぷち。あゝ切ない。全国学力・学習状況調査の結果がまとまり、本町の中3は数・理・国全3教科で全国・全道の平均超え、小6も国・理で同様の結果に。やるじゃん、白老っ子！。都市の将来像や整備方針を明確にする第2次白老町都市計画マスタープランを策定。

10月

1、2日の両日、白老八幡神社例大祭が3年ぶりに開催。境内の露店街や歩行者天国でのよさこいソーランの大乱舞に町民が活気づきました。13日、仙台藩白老元陣屋が「北海道遺産」に選定されるビッグなニュースが飛び込みました。地道に保存活動に取り組んできた関係者や町民の努力が評価されました。13日、

仙台藩白老元陣屋が“道民の宝”に選ばれる



スペイン・バスク地方からミシュランガイド星レストランのシェフら視察団がアイヌ文化探究で来町。ミシュランシェフらがアイヌ伝統料理のチエプオハウを作る姿に感動。白翔中が3校統合後10年を迎え、祝う会。

11月

町立虎杖小が開校120年。地域とともに歩んだ歴史を振り返り、新たな一歩を刻み始めました。

白老のこの一年を思い起こしながら感じるのは、小さな出来事も大きな出来事もそのひとつひとつに、白老の将来に向けた「夢」と「希望」が隠されていたことでした。迎える新年は皆さんにとって良い年になるようにお祈りいたします。(竹)